

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(23年9月) —総合指数・コアともに4%台まで低下

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:総合指数、コアともに前年比4%台まで低下

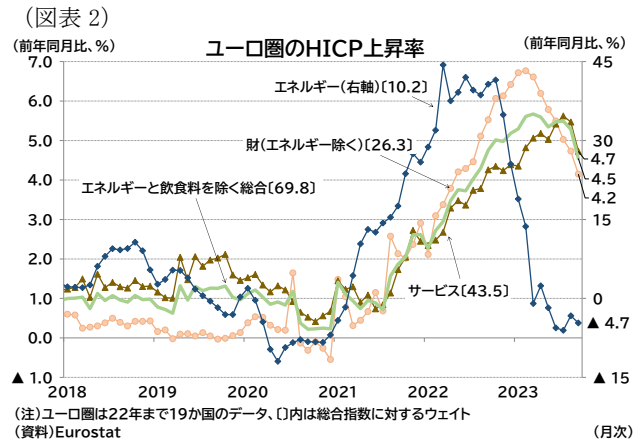
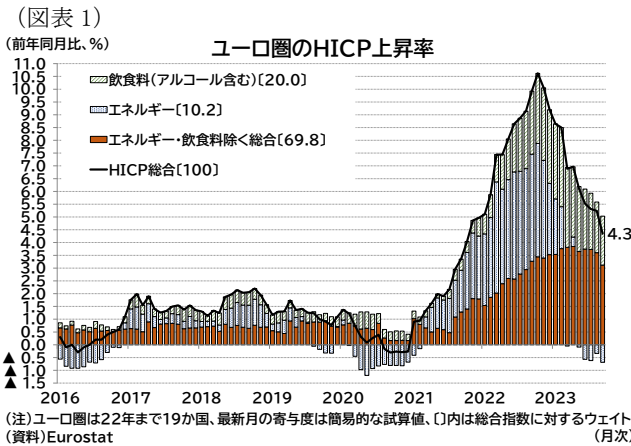
9月29日、欧州委員会統計局(Eurostat)は9月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は4.3%、市場予想¹(4.5%)から下振れ、前月(5.2%)から低下した(図表1)
- ・前月比は0.3%、予想(0.5%)より下振れ、前月(0.5%)から減速した

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は4.5%、予想(4.8%)から下振れ、前月(5.3%)から低下した(図表2)
- ・前月比は0.2%、前月(0.3%)から減速した



2. 結果の詳細:コア部分の財・サービスともに4%台に、飲食料も低下傾向が続く

23年9月のHICP上昇率³(前年同月比)は全体で4.3%となり、8月の5.2%から大幅に低下、21年10月(4.0%)以来の伸び率となった。「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」も4.5%となり、8月の5.3%から大幅に低下している。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

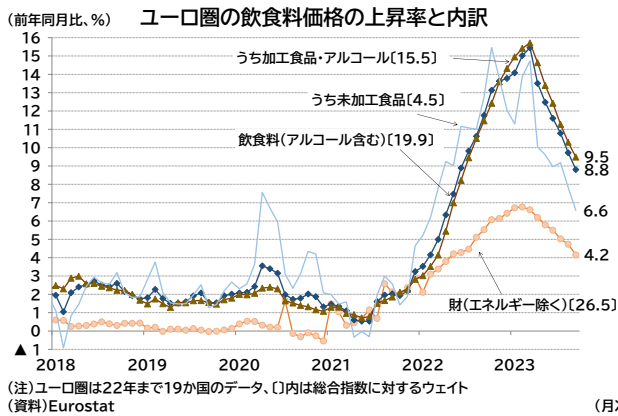
² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ(以降も特に断りがない限り同様)。

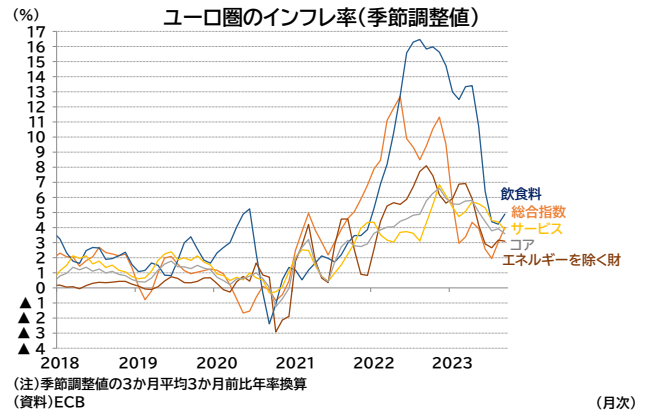
（飲食料も除く）」が7月5.0%→8月4.7%→9月4.2%、「サービス」（エネルギーを除く）が7月5.6%→8月5.5%→9月4.7%となり、いずれも大幅に下落している。なお、サービスインフレはドイツで昨年6-8月に月額9ユーロで公共交通機関が乗り放題となる政策を実施し、9月に終了されたため前年比伸び率が低下しやすくなるベース効果が生じている。前年同月比寄与度は、「財」が1.01%ポイント程度、「サービス」が1.87%ポイント程度と見られる。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で7月▲6.1%→8月▲3.3%→9月▲4.7%とマイナス幅が拡大した。前月比では1.4%とプラスかつプラス幅も大きいですが、昨年のエネルギー価格の上昇が急だったため、前年比伸び率が押し下げられている。エネルギーの前年同月比寄与度は▲0.69%ポイント程度（8月は▲0.34%ポイント）と見られる（前掲図表1）。

（図表3）



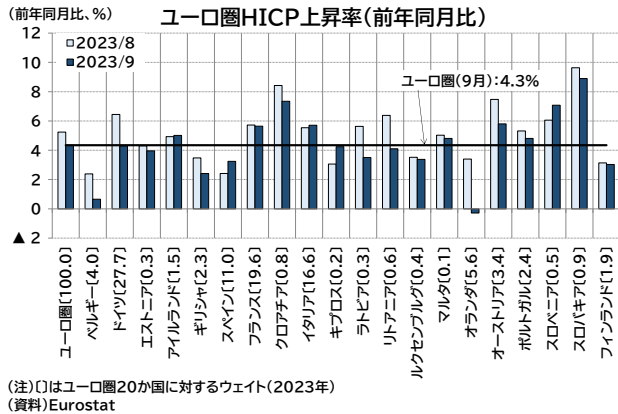
（図表4）



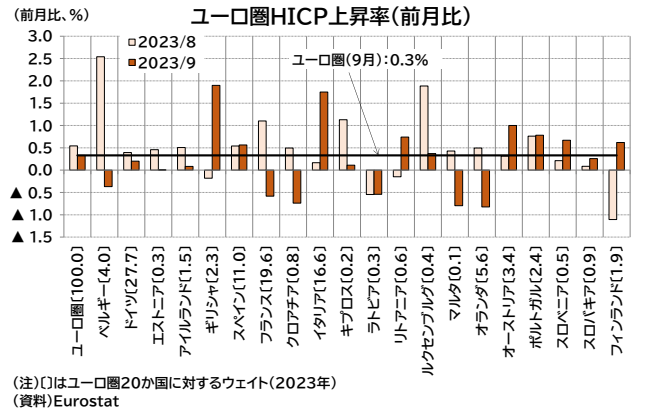
「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で8.8%（8月9.7%）と6か月連続で大幅に低下した（図表3）。飲食料のうち加工食品の伸び率は9.5%（8月10.3%）、未加工食品は6.6%（8月7.8%）となり、いずれも大幅に下落している。飲食料の前年同月比寄与度は1.91%ポイント程度（8月は1.98%ポイント）と見られる。

物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると（図表4）、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が4.0%、コアが3.6%、エネルギーを除く財が3.1%、サービスが3.9%、飲食料が4.9%となり、コア部分は財、サービスともに3%台まで低下した。

（図表5）



（図表6）



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中、上昇したのは5か国で残りの15か国は低下した（図表5）。なお、8月はベルギーとオランダでECBの物価目標である2%を下回った。

前月比では14か国がプラスの伸び率、6か国はマイナスの伸び率となっている（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。